

エジプト駐在武官

日誌 (3)

榊枝 宗男 陸自75

着任2日目の武官の仕事は、エジプト海軍士官学校の卒業式参列であった。

武官の基本的役目は、エジプト・日本両国の軍事面での透明性を増すことと、軍の関連行事に日本国政府を代表して出席することなどである。

カイロから灼熱の砂漠ハイウエーを車で約2時間、地中海に面するアレキサンドリアに海軍士官学校があった。

エジプトには徴兵制があり、成人男性のうち中学校卒業者は3年、高卒は2年、大卒は1年の義務兵役である。

この士官学校は高卒者から入学試験により選抜され、4年間の教育訓練を受け学士の資格を得て海軍少尉になる。この教育システムは日本の防衛大

学校とほぼ同じだ。
アラブ湾岸諸国やアフリカ諸国からの留学生を含み、約千人の在校生が訓練場に整列した。ムバラク大統領(当時)から直接卒業生に卒業証書を付与する。

昔から欧米では「その国の発展の可

能性は、その国の若者を見ればわかる。その国の若者を見なければその国の士官学校の士官候補生の目の輝きを見よ」と言われている。そのとおりにエジプトでも参列した各国の駐在武官らは来賓席から、卒業生たちの日焼けした引き締まった身体と鋭い眼光をチェックしているかのようであった。

当時もエジプトには、日本の防衛白書というような公刊資料は一切ない。

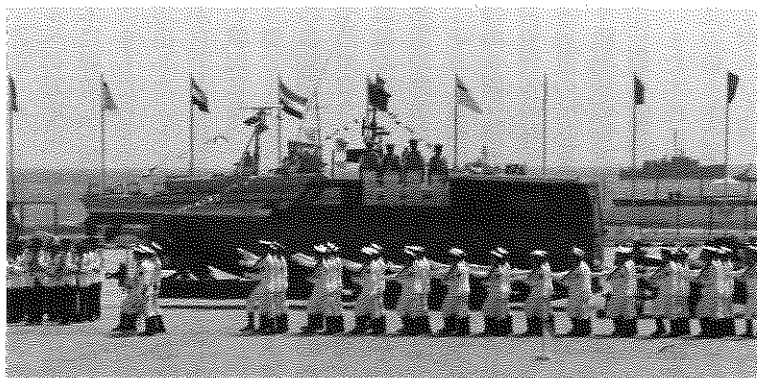


写真 エジプト海軍士官学校卒業式典 筆者撮影

各国武官は自分の目と情報ネットワークが頼りとなる。中東とアフリカ全般の安全保障を担当するのは当時私人だけであった。まさに手探りの3年間の仕事が始まった。

現在では、散発するイスラム過激派のテロ事件等で邦人が殺害された事件を契機に、また、ジブチ海賊対処行動や南スーダンPKO等の国際平和協力活動に自衛隊が参画することから、アフリカ諸国への駐在武官派遣国がケニア、エチオピア、モロッコ、南アフリカ等へと拡大されている。このことは、わが国の安全保障の観点から極めて喜ばしいと言えよう。

広告目次

- (株) セレモア……………表紙3
- (株) 東京都民互助会……………表紙3
- ローレルバンクマシン(株)……………表紙4
- (株) 武蔵富装……………43
- 信和株式会社……………43
- (株) 和泉家石材店……………44
- 本誌へ広告掲載をご希望の方は、事務局へご用命下さい。